

FCHD
中期計画

売上高85億円目標

次世代事業創出など基軸

福山コンサルタントを中核事業会社とする持ち株会社のFCホールディングス（FCHD、福島宏治社長）は12日に福岡市内で投資家説明会を開き、3カ年の新中期経営計画を発表した。コンサルティング事業の多分野化、海外展開の拡大、顧客層の多層化などを指すとともに、次世代事業の創出や生産性向上に積極投資する。2022年6月期の連結業績目標は売上高85億円などと設定した。

説明会で福島社長は「常に業界水準を超える収益性を連続し、共創的進化を遂げて100年企業への道を進みたい」と述べた。創業80周年となる29年に売上高130億円、営業利益15億円を目指す目標も示した。中期計画の期間は22年6月期までの3カ年。▽次世代事業の創出▽コアコンピタンスの追求▽多様な人材の雇用と継続教育▽ICT（情報通信技術）活用による生産性向上の4項目を

経営戦略の基軸とし、投資額や目標を設定した。次世代事業の創出では営業キャッシュフローを上回る20億円超を3年間で投資する。グループの専任研究所であるSVI研究所に専任研究員5人と市場化などのアドバイザーを3人配置し、組織体制を強化する。事業会社の研究開発費に2億円を充て、責任者を特定して予算を与えることで研究開発を後押しする。

河川分野などの建設コンサルタントや建築系、海外コンサルタントなどを対象としたM&A（企業合併・買収）、提携強化も推し進める。コアコンピタンスの追求では22年6月期の追加売り上げ目標を5億円と設定し、人材確保では年間に新入社員10人程度、中途採用社員5人程度を採用する。マネジメント系教育支援制度の創設など教育面を充実。ICTの活用や再雇用期間の延長などによる就業環境整備も進める。生産性の向上は時間生産性5%アップを目標に3年間で2億円を投資。社内に蓄積したデータを活用した人工知能（AI）システムの開発などに取り組む。

業績目標は22年6月期に連結ベースで売上高85億円（19年6月期予想比11億5000万円増）、営業利益9億円（1億5000万円増）に設定。特に非建設コンサルタント事業や海外市場、民間顧客の売上高増加を目指す。役員数は40人増の380人を目標にした。